

# 輝き

三木市立三木特別支援学校 学校通信 No.2 令和5年5月2日

## 子どもたちの表情の変化を感じます

スクールバスから降りてくる子どもたちの笑顔が素敵です。学期始めには緊張した表情の子どもが多かったのですが、少しずつ新しい学級や友だち、担任に慣れてきて、その子らしい表情が見られるようになってきました。昼休みには、それぞれの児童生徒が楽しめることを見つけて、過ごしています。遠慮がちだった子も、次第に自分の思いが出せるようになり、「〇〇してください。」と、したいことを教員に頼んでいました。また、他の子は休み時間が終わってもなかなか止められず、学習に誘う教員とやり取りをしていました。

このように、まずは新しい環境に慣れて思いが表現できるようになることが楽しく学校生活を送る上で大切だと思います。そのような状態に多くの子どもたちがいることを嬉しく思います。また、その陰には保護者の皆様の見えないところでのお心遣いによるところが大きいと思っています。本当にありがとうございます。

## 授業参観・個人懇談ありがとうございました

4月12日(水)入学式、21日(金)授業参観、PTA総会、引き渡し訓練、24日(月)と25日(火)個人懇談と、保護者の皆様には連日にわたり学校にお越しいただき感謝申し上げます。

24日からの個人懇談では、本年度の学習目標をたてる上での情報収集と意見交換をさせていただきました。小学部1年生は初

めの学校生活でどのようなことを取り組むか、中学部の生徒はこれまでの過程を踏まえて、どういう方向性で進めるか、保護者の皆様のご意見を参考に、家庭と学校とが同じ方向を向いて、意見交換をしながら取り組んでいきたいと思っております。これからもどうぞよろしくお願い致します。

## 5月1日 創立記念日

昭和49年5月1日に三木市立三木養護学校が、口吉川町殿畑(現口吉川公民館)に開校しました。今年で49年目を迎えます。近隣の神戸養護学校が昭和53年、いなみ野養護学校が55年の開校ですので、本校は県立養護学校に先駆けて開校しています。

なぜ、本校はそんなに早くできたのでしょうか。約30年前に、私が先輩教員から教えてもらった話です。当時、知的障害のある子どもが行ける学校はなく、自宅で過ごしていました。昭和47年に文部省は知的障害養護学校の設置を決めます。そこで、それまで黙っていた保護者の方々が集まり、「自分たちの子どもが行ける学校をつくってほしい。」と市に要望しました。また、保護者ばかりでなく様々な市民の方々の協力がありました。その思いを受けて、市が開校を決断したそうです。その証拠の1つとして、校章や校歌は開校当時の保護者と職員で考えられ、校名が変わった今も受け継がれています。このような歴史があることを私たちは心に留めておきたいと思っております。

校長 橋本 泰一